

塩谷郡市医師会だより

Contents

平成20年度第3回役員会
地域医療シンポジウム
学術講演会の報告

第55号

社団法人 塩谷郡市医師会

さくら市桜野1319番地3
さくら市氏家保健センター内
TEL 028(682)3518

平成20年度第3回役員会報告

平成20年12月8日(月)午後6時30分よりさくら市氏家保健センター医師会事務室にて開催された。

出席者：尾形会長・山田副会長・阿久津副会長・軽部・佐藤・半田・岡・尾形新・大和田手塚理事・池田・越井・川原事務長・桑川次長



■議題 塩谷総合病院移譲問題の現状報告

尾形会長、山田副会長、阿久津副会長から現在受け皿として交渉が進められている済生会宇都宮病院の方針や県の方針について報告があり、現状では平行線となってあまり進んでいない現状が報告された。済生会が救急医療を行わず、老健施設としての存続のみを考えていることについて医師会としてどういう態度を示すべきか、また仮に済生会との交渉が決裂し、矢板市を中心とした広域行政が関わる公設民営となった場合の医師会

の果たす役割をどうするかなどについて、出席した役員からは「積極的に関与するべきだ」「医師会で資金が出せない以上、難しいのではないかなど、活発な意見が出たが、現時点では静観するしかないとの意見が多数を占めた。

尚、下野新聞紙上ではこの件に関し詳細な報道が続いているので注目してください。

■議題 氏家税務署の税務調査について

11月27日医師会の会計に氏家税務署の税務調査が入り、いくつかの不備が指摘されたことが川原事務長から報告された。

■議題 休日夜間こども診療室について

阿久津副会長から、受診者数が2年目、3年目と減少している現状について報告された。また、協力医師の減少(30名から20名に減少)しているため、現状維持は困難であることから診療時間や日数の削減を検討したいことと四月以降の運営についていくつかの案が提示され、役員会として日数削減は止むを得ないということになった。具体的には12月17日のこども診療室運営協議会で協議される予定。

■議題 塩谷地区の救急医療について

阿久津副会長より在宅休日当番医の現状について報告された。現在年間受診者数は約8000人、1日あたり110人で若干増加傾向に

「医師会だより」は活字の大きさを大きくして読みやすくしました。

塩谷郡市医師会ホームページ/メール	広報委員会編集部	医師会事務局
URL http://www.tochigi-med.or.jp/shioya/ メール shioya@tochigi-med.or.jp	岡 一雄 r2d2@msh.biglobe.ne.jp 尾形新一郎 ogata@o-ga-ta.or.jp	桑川 shioya@triton.ocn.ne.jp 坂和 sakawa@e-shioya.jp

あり、小児の比率は 40%を超えている。休日・平日準夜帯の初期救急体制が未整備であり、宇都宮・大田原の救急体制への依存度が増している課題と今後の対策についての提案がなされた。塩谷病院問題もあり、現状維持の方向で行くことが確認された。

■議題 「連携くん」バージョンアップ

尾形会長より、現在黒須病院、塩谷総合病院と診療所をITで結ぶ「連携くん」が広域行政にも分担金を出してもらってバージョンアップすることが報告された。具体的にはCTやMRIなどの検査予約が出来ることになったことです。ただし、現状ではまだ画像のやり取りは出来ません。病診連携用WEBシステムでの個人情報の取り扱いについても説明されました。

■議題 その他

尾形会長から、県北医療圏で国際医療福祉病院が救急医療、周産期医療、癌医療、循環器疾患医療の増床を申請していることが報告された。

山田副会長から来年4月25日(土)矢板市イースタンホテルで那須郡市医師会と合同の講演会が開催されるので、ぜひ多くの会員が出席して欲しい旨が報告された。次回の役員会は2月9日(月)に行われます。

臨時総務会報告

塩谷総合病院の経営移譲が暗礁に乗り上げていることから、現在の状況と今後の見通しについて話し合う臨時総務会が12月18日に行われた。

現状では救急医療は出来ないと表明している済生会宇都宮が受け皿となる可能性が低く、別の団体が受け皿になるか、矢板市を中心とした広域行政が受け皿となり公設民営の形になる可能性あること。医師会ではこ

の事態を地域の医療を守り、救急医療の後退を招かない方向に導くように働きかけていくことが確認された。

塩谷医療史研究会発足

塩谷町で江戸末期から明治にかけて医療を営んでいた青木家の古文書がさくら市氏家町史編纂室に保管されている。古文書は段ボール箱20箱あまりに及び膨大なもので、当時の医療事情や医療制度を知る上で貴重な資料で、塩谷郡市医師会史の続編(新生医師会以前の歴史を取り扱う予定)を編纂する上で大変参考になるものです。

この古文書を解説、研究する研究会が町史編纂責任者の大嶽先生、医師会史編纂委員長の岡を発起人として発足しました。興味のある方は岡までご連絡ください。

地域医療シンポジウム

「地域医療の再生に向けて」開催される

本会主催の第二回地域医療シンポジウムが11月1日(土)午後3時から矢板市文化会館大ホールにおいて開催された。

今回は塩谷総合病院の経営移譲問題で



医療崩壊に直面している塩谷地区の地域医療の再生をテーマとした。当日は560名を越える多くの市民が参加し、

基調講演やパネル討論に熱心に耳を傾けた。

山田副会長の開会の辞、遠藤矢板市長の来賓挨拶でシンポが始まった。まず、阿久津博副会長が塩谷地区の地域医療の現状を報告し、那須南病院の関口院長が自治体病院の現状を報告した。

基調講演では城西大学准教授の伊関先生が北海道の夕張市立病院の破綻と再生、兵庫県

の県立柏原病院小児科が地域のお母さん方の努力で存続したことなど、興味深い事例が歯切れよく披露された。その後、済生会宇都宮病院の中澤院長による三次救急病院の立場の話、栃木県保健福祉部荒川部長の地域医療計画の話、尾形直会長による地域医師会の役割の話が行われた。その後、伊関先生を加えたパネリスト全員による討論が阿久津博副会長の司会で行われた。



活発な意見交換がされました

塩谷総合病院の移譲先の交渉が済生会宇都宮病院と行われているため、踏み込んだ議論が期待されたが、中澤院長は終始硬い表情で、崩壊に瀕している塩谷地区の救急医療について、済生会が引き継いだ場合は行わないで高齢者医療を中心とした施設を想定しているという考えを示した。一方、県福祉部の荒川部長は地域医療計画の上でも塩谷病院を二次救急病院として存続させたい意向を表明した。現在、県が仲介し、JA厚生連と済生会宇都宮病院が交渉中であるが、両者の立場の違いが明らかとなった。また、会場からは、塩谷病院の看護師さんが今の病院の現状と救急医療の存続を涙ながらに訴える場面があった。最後は司会の阿久津博副会長が総括し、シンポは予定の時間を超過し、午後6時に閉会した。この地域の医療再生の困難さを再認識する、内容は濃いが実りの少ないシンポジウムであった。（報告者：岡）

シンポジウム報告書発行

医師会では今回のシンポジウムの詳しい報告書を1000部発行し、医師会会員、行政関係者、一般市民等に配布します。医師会会員各位には今回の医師会だよりとともに一部ずつお送りしますので、ぜひご覧下さい。また、二部以上必要な方は医師会までご連絡下さい。

脳卒中予防講習会

「脳卒中予防のための治療戦略」

日時：平成20年10月28日（火）

講師：大田原赤十字病院副院長

白井孝俊先生

栃木県の脳卒中による死亡率は相変わらずワースト1である。毎年開催している脳卒中予防講習会の今年の講師は県北地域の三次医療機関で脳卒中基幹病院に指定されている大田原赤十字病院の副院長で神経疾患がご専門の白井先生にお願いした。講演では近年脳梗塞の中でもアテローム血栓が増加していることや、非心原性脳梗塞では抗血小板療法が有効であることを大規模試験の結果を踏まえて説明してくれた。

また、最大のリスクである高血圧のコントロールにはARB、ACEI、長時間作用型

Caブロッカーが望ましいことなどが示された。会場から抜歯や白内障の手術の際の抗血小板薬の休薬についての質問など活発な質疑応答が行われた。



（報告者：岡）

介護保険講演会

かかりつけ医認知症対応力向上研修会

日時：平成 20 年 11 月 21・28 日

講師：サポート医 小林正樹先生

高齢化社会において認知症の人をいかに支援していくかは、医療・福祉の分野では大きな問題である。

今回の研修会は栃木県が主体となり、高齢者が日頃から受診する診療所などの主治医（かかりつけ医）を対象に認知症診断のための知識や技術、家族からの話や悩みを聞く姿勢を習得するために実施された。



講師はさくら市喜連川の小林医院院長の小林正樹先生で、先生は現在認知症サポート医も務めている。研修は二日間、計 4 時間に及び、今後われわれかかりつけ医が外来の場面で役に立つ内容の濃いものであった。研修後に、県知事発行の修了証書が参加者に渡された。講師を務めてくれた小林先生、お疲れさまでした。

さくら市健康まつり



毎年恒例のさくら市健康まつりが 10 月 26 日（日）、さくら市氏家体育館格技場で行われ、さくら市医師団から森島真、岡一雄の 2 名が協力しました。今年は肺年齢の測定と禁煙相談、健康相談を行いました。

例年と比べ多くの市民が訪れ、肺年齢測定は約 80 名、禁煙および健康相談は約 50 名も参加し、肺年齢測定に使用したスパイロメーターのマウスピースが用意した分を全て使い切ってしまいました。多くの市民にタバコの害と COPD について知ってもらうことができ、有意義な健康まつりとなりました。



（報告者：岡）

肺年齢測定中

事務局 通信

健康かわら版第 3 号好評配布中

12 月 1 日発行の第 3 号はインフルエンザ特集です。ぜひ、多くの患者さんに配布してください

麻薬旧免許証の返納について

旧免許証と返納届けを郡市医師会事務局へ 21 年 1 月 9 日（金）までに返送してください。

返納届日は記入しないでください

事務局のお正月休みについて

12 月 27 日（土）より 1 月 4 日（日）までお休みを頂きます。ご不便をおかけしますが、よろしくお願い致します。

新年会のご案内

1 月 23 日（金）矢板市医師団・塩谷町医師会の当番でロペ倶楽部にて 19 時から開催されます。